

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合

〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号

TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290

発行者/今井 伸 編集者/久保田勉

“異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と蹉跌”

「国鉄改革の裏側」ダイジェスト版 第1回

あの元国鉄労働課長が明かす「国鉄改革の裏側第6弾」が【異形の労働組合指導者「松崎明」の誤算と蹉跌】という本になった。本紙は筆者（宗形明氏）の了解を得て、『JR東日本革マル問題の真相と現状』をダイジェスト版として紹介することとした。



「週刊現代」効果

事態が一変したのは、平成18年7月から翌年1月にかけて24回の長期に亘って『週刊現代』に連載された【テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実】であった。私は、『「JR総連・東労組」崩壊の兆し！？ —「JR東日本革マル問題」の現状—』（高木書房 平成19年10月刊）の中で、【…この『週刊現代』長期連載記事「テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実」は、かつての「日本人拉致事件」問題と同様、ほぼ20年もの長期に亘りマスコミ界でタブー視され、封印、自主規制され続けてきた「JR東日本革マル問題」の真実を白日の下に引きずり出したこと。しかもそれが出版界の名門、講談社の『週刊現代』誌上において完膚無きまでに徹底して行われたことで、雑誌ジャーナリズム世界の枠を超え、政・官・労働その他各界にまで大きな衝撃を与えた】と書き（同書20頁）、これを“「週刊現代」効果”と呼んでいる。

執筆者・西岡研介氏は、この【テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実】で、平成19年「編集者が選ぶ雑誌・ジャーナリズム賞」を受賞した。同氏は、神戸新聞、『噂の真相』誌、『週刊文春』、『週刊現代』と、華麗な記者遍歴を重ねる間に、数々の特大級“スクープ”を物にした実績で、マスコミ界にその名を知られた敏腕ジャーナリストである。なお、西岡氏が連載終了後、同記事をベースに加筆し、単行本化した『マングローブ』（講談社 平成19年6月刊）は、「第30回講談社ノンフィクション賞」を受賞した。“「週刊現代」効果”は目覚ましく、「JR東日本革マル問題」を取り巻く環境は私が無力を嘆いていた時代と激変した。

その後起こったJR東日本労政及び労使関係上の重要な変化、例えば次の事柄などは、すべて“「週刊現代」効果”が多かれ少なかれ反映しているものと私は考えている。

①浦和電車区強要事件・東京地裁判決（被告7名全員有罪）を受けたJR東日本会社による「浦和電車区事件被告社員6名に対する懲戒解雇」処分（07. 8. 30）

<処分理由：会社施設内において当社社員（当時）に対し行った行為が、強要の罪に当たるとして、平成19年7月17日、東京地方裁判所にて有罪判決を受けた。この行為は、職場秩序を著しく乱し、また、会社の信用を著しく失墜せしめたものであり、社員として極めて不都合であるため>

②三鷹電車区事件被害者・佐藤久雄氏が豊田運輸区・運転士に復帰（08. 7. 1）

③かつては「蜜月」関係にあったJR東会社を相手取り、石川尚吾東労組委員長、同八王子地本奥村隆夫委員長が、東京都労委に対し「不当労働行為救済」申し立て（07. 7. 20）

④“革マル排除”を旗印に立ち上がった「JR東労組を良くする会」を母胎とする反松崎・反本部の人々による「ジェイアール労働組合」（本間雄治委員長）の結成（07. 9. 1）

【異形の労働組合指導者「松崎明」の誤算と蹉跌（高木書房）P.73~P.75】